



1. 点 鐘

2. 合 唱 国歌「君が代」,「奉仕の理想」,ロータリーの目的

3. お客様の紹介

・米山奨学生 シルバカーランバアラッチゲドナ・シーギリ・ヒマーシさん

4. 会長の時間

- 先週、一に健康(ゴルフ)、二にロータリー、三四が無くて、五に仕事と話しましたが、今日は五番目の仕事(職業)について少しお話しさせていただきます。
- 私は秦野市戸川の「大秦野団地工業協同組合」の中に会社があります。この「大秦野団地工業協同組合」は今から凡そ40年前に県の高度化資金を使い、秦野市内にある中小零細業者の組合を作って戸川に移転させようというものでした。この県の中小企業高度化資金というのは、窓口は県ですが実際は70%が国で30%が県という内容の融資です。融資の内容は2年据え置き15年返済、実質は13年返済になり、利率は2.7%でした。当時は7~8%の利率でしたから半分以下の非常に安い金利でした。
- この制度を使い、建屋は昔の長屋風に三棟できそこに11社が移転しました。私のところは総事業費2700万、自己資金が10%という形でした。返済が始まって7~8年くらい間に3社が倒産しました。現在までにも2社が太刀ゆかなくなり当初11社で始めましたが現在は5社が会社を閉鎖しました。それだけ中小零細業者というのは大変であります。
- 特に私が言いたいのは、中小零細業者というのが大変でオーナーが一人でやっているところもあれば、またオーナーと家族従業員の3人でやっているところもあります。そういう意味でもこのコロナ禍の中でも大変になっており、コロナが無くても中小零細業者には厳しいものがあります。
- 私のようにゴルフをやったり、ロータリーに入ったり、あるいは昔ですが海外に遊びに行ったりしているとなかなか大きくはなれません。中小企業の中でも寝食を忘れて仕事に没頭して成功する人、あるいは良きパートナーを見つけて大きくなっていく人、自分によって大きくなっていく人等あります。
- そうは言っても自分なりに処世術がありまして、景気のいいときは大丈夫、と設備投資をしたり、あるいは工場を移設したりし、景気の悪くなったときはそれなりに頑張らなければなりません、それよりも良いときに蓄えをしておくということが私のような中小零細業者が生きる道ではないかと思っています。
- 現在大秦野団地11社ありましたが、初めからの代表は私一人になりました。息子も頑張っているんで退いてもいいとは思っていますが、最終的にはお金がきちんとしていないと会社は回っていかないと思いき、私は死ぬまで代表であり続け、そうすれば会社も潰れないと自負しております。



5. 幹事報告

【ガバナー事務所より】

今月のロータリーレート：1 \$ = 106 円

①2020年9月 基本的教育と識字率向上月間リソースのご案内

②9月1日以降の友事務所運営について

③通販・特印情報：特殊切手「日本のロータリー100周年」

④ライブ配信：青少年交換帰国報告会のご案内（9/5）

⑤第49回ロータリー研究会 第2部オープン・フォーラム開催のご案内

【受付文書】

【例会変更】

《秦野》

・9月22日（火）休日休会

・9月29日（火）休会

【本日の配布物】

・1697回例会次第

・1696回例会週報

6. 奨学金授与及びスピーチ



○こんにちは、米山奨学金を戴きありがとうございました。
○今日は昨夜から調子が悪くて例会に遅れてしまい申し訳ありませんでした。スリランカも一年中暑い国なんですけど、2回目の夏でも暑さに慣れなくて湿気のせいだと思います。本当に申し訳ありません。

○今大学は夏休みになりました。日本に来て一年半ですがこれからどこか旅行に行きたいと思っています。今は和食を食べながら温泉に入りたいと思っています。温泉というとスリランカでは温泉という文化がないのですごく恥ずかしくて裸で入ることがスリランカの文化としてはなかなか考えられないことでした。

本当にこれはカルチャーショックでした。でも今は凄く気持ち良くて、友達からもアドバイスをもらい良いところを探して積極的に温泉に入ろうと思っています。

○皆さん、ありがとうございます。これからもよろしくお願ひ致します。



7. 記念日

会社創業記念日

入会記念日 桐山さん（9/11）、淵脇さん（9/11）

御結婚記念日

御誕生記念日（会 員）
（配偶者）

8. スマイル報告

○神崎達朗さん「9月になりました。暑さももう少しの辛抱です。うなぎを食べましょう。」

○大屋富茂さん「本日は会員の皆様の3分間スピーチです。それぞれに思いを込めてのお話しを楽しみにしております。」

○鈴木和夫さん「台風9号・10号と立て続けで九州地方は大変です。大した被害が出なければ良いですね。何事もないことを祈ってスマイル！」

○古谷スミ子さん「天候不順な今日ですが、もう秋になります。コロナに負けず元気に頑張りたいですね。」

○山谷洋子さん「昨年度の交換留学生ラウラからメールが来ました。日本語で「元気で学校は3週間前に始まりました」ということです。」



- 桐山晃忠さん「秋色の9月に入りました。会員増強に協力の程お願い致します。入会記念日ありがとうございます。」
- 北村まり子さん「台風10号弱くなると良いですね。」
- 原郁夫さん「ヒマーシさん、ようこそ！」
- 原恵美子さん「昨夜降っていた雨が止むと、秋の虫達が一斉に鳴き出しました。何故か心はしんみり。これからの人生を悔いなくどのように生きていくのが一番良いのか？考えるのには“秋の夜長”がピッタリなのかもしれませんね。」
- 東島礼美さん「昨日は満月でした。今の世の中のように混沌とした空模様でした。」
- 淵脇美代子さん「入会記念日のお祝い、ありがとうございます。暑さの中にも秋の気配！夏の疲れが出ませんように！」
- 諸星利男「スマイル致します。」
- 諸星道治さん「ヒマーシさんお久しぶりー。今日の日本語楽しみです。台風10号心配です。また九州地方です。」
- 矢端雅子さん「少しずつ暑さが峠を越してきました。皆様、季節の変わり目ご自愛下さいませ。」
- 酒井健一さん「来週より、卓話を皆様をお願い致します。」

合計 52,000円

9. 出席報告

○会員数 16名、○出席義務 16名、○出席数 16名、○出席率 100%

10. 地区委員会報告 ⇒ 無し

11. 委員会及びその他の報告

○諸星道治さんより

一昨年の私の年度の時に「神奈川被害者支援センター」専務理事の方の卓話をして頂きました。よく話を聞いてみると、“被害者支援制度”が神奈川県では横浜市と茅ヶ崎市の二か所しかないそうです。

今回、秦野に帰って来られた方が市の方へお願いし、議会で説明させて頂いたところ秦野市でも被害者を支援する条例を作って頂けないかとお話しされたそうです。

被害者支援というのは、例えば被害にあった方を裁判所に連れて行ったり、ケアをしてあげたり、そういう方たちの負担する費用を出してあげ少しでも被害者を助けてあげようということです。

今回議会では賛成多数を取ったという事ですが、まだなかなか活動に至っていないので皆さんに署名活動をしその署名をもって議会に早く条例を作成し活動して欲しいと思います。詳しく知りたい方は私までお越しください。



12. 会員3分間スピーチ

【酒井健一さん】



○皆様ご存じのように昨日“ベルク”が自宅の真ん前にオープンしまして10時頃行ってみました。中はごちゃごちゃになっており、誰か社長でもおられるのかと思いましたが、どなたもおられず担当の方しかいませんでした。中の商品は“キミサワ”よりランクが上です。それを結構安く売っていただけだったのでたくさん買い込んで来ました。

20歩で行ってしまうので、良いものができたとかこれからの人生楽しみにしております。

【大屋富茂さん】



○この3分間スピーチの意義ですが、今年度が始まる前にプログラム委員長の酒井さんから「クラブが16名になりましたがそこで16名の人となり良く分かっていないのではないかと話がありまして、それによってなるべく各人の生い立ちや事業の話しであるとかそういうことを話して欲しいと思います。

○ということで、私は昭和18年3月16日生まれ77歳であります。生まれは満州です。当時の満州は国策もあったと思いますが、関東軍と満州で事業をされる方それから満鉄の職員、満蒙開拓団の人々当時日本も大飢饉で東北や私の出身長野県も何も産業がありません。そういうところの次男・三男が国策でとにかく満州へ行きなさい、満州へ行けば土地も広い、非常にいい生活が待っていると云われ多くの人が満州へ渡ったようです。

しかし敗戦と同時にガラッと変わったわけです。当時のソ連が北から中国へずーっと攻めてきて同時に開拓と言えども中国の人たちが耕した土地を日本人が満蒙開拓と称して横取りしたので非常に恨まれていた。

そういうわけで日本に帰還する際は非常に苦勞されたようです。この満州からの引き揚げの話は相当悲惨な思いをしているので皆さん話したがない様です。私は父親の出身地長野の木曾に母親とともに引き揚げさせてもらいました。

高校1年の時に父親が他界し、その後現在101歳になる母親が兄弟3人を育ててくれました。今77歳になって仕事ができる、という事は自身が摂生して体を維持しているとは思っていません。こうして元気で丈夫でいられるのは両親のお蔭だと思っています。本当に感謝しております。

○人生というものは楽あり苦あり、嵐も来ればいい天気も来るといふことで、全て物事前向きに捉えればいい方向に向かうと信じてこれからも過ごして行きたいと思ひます。

【原郁夫さん】



○大屋さんから満州引き揚げの話をよく聞きますが、その度に私は「大屋さん、3歳の時に満州から引き揚げ中には置き去りにされたり預けられたりした人たちが大勢いたのですが、お母さんに連れて帰ってきてくれてあなたは幸せな人だね」と半分冗談で言ってます。

○先程大屋さんから、長野県阿智村に“満蒙開拓平和記念館”がある話が出ましたが、今年の春行って来ました。本当に向こうで厳しい悲惨な生活をされて終戦ともに戻られた人たちの記録が掲載されているので、もし近くに行かれましたら立ち寄ってみて下さい。

○さて私の生い立ちですが、私は戦後の生まれで鶴巻の農家のお坊ちやまとしておじいさんは男の子が生まれたと大層喜んだそうです。

○我々の時代農家の跡取りだから家のことやるんだと当たり前のように育てられて、学校卒業して抵抗なく家を継いだわけです。作物は植木がいいのかなと思ひながら、耕作面積が多かったので植木の生産に飛び込んでみました。地元の造園会社東開造園の岡部社長には大変お世話になりまして、運動公園の中央から西側のつつじを納めさせて頂きました。文化会館の植栽もほぼ全部納めさせて頂きました。公共緑化から入り、今はホームセンター向けに変わりましたが植木も売れなくなりました。

○今燃えているのはコメ作りです。今年は三町五反をやっています。我が家は幸か不幸か市街化が多く固定資産税が高い農地が多かったので、ある時頭を切り替えて、税金の高いところは運用しようとして市街化の所は不動産運用、調整の方はいくらでも借りられるだろうと、おじいさんの代は大地主だったのですが、今は

小作人になっています。水田の面積は「作って欲しい」ということで毎年増えて今家内と一緒にコメ作りを楽しんでいます。

○こんな農家のおじさんです。今後共宜しくお願い致します。

【山谷洋子さん】



○いつも授業が終わると少し雑談をするのですが、今日はその雑談を纏めてきました。

○“ブリジストン”の名前の由来をみなさんにご存じでしょうか？答えは“ブリッジ”と“ストーン”で石橋のことですが、語呂が悪いので逆にして“ブリッジ”と“ストーン”にしたそうです。この方は17歳の時

に家業を継ぎまして地下足袋を作りました。地下足袋の裏にゴムをつけてそのゴムをつけたことでたいへん流行りまして、海外に進出しようと思いました。その時にいずれは自動車にもできるのではなかろうかと社会を見据えて日本の資本で日本人の技術によるタイヤの国産化を目指しました。タイヤの生産を開始しそこで名前を先程お話ししたように、石橋ということで“ストーン”“ブリッジ”を考えたわけですが、やはり語呂が悪いということで“ブリッジ”“ストーン”“ブリジストン”となったわけです。

○もう一つは、先程中国の戦争の話が出ましたが、私の父は10代後半から20歳まで兵隊に行きました。向こうではさほど苦勞はしなかったようですが、子供がいくら聞いても戦争の話はしてくれませんでした。ただ一つだけ話してくれたことは農家の人が囲碁を教えてくれたという事です。それがとてもうれしかったらしく、日本に帰ってきてからも囲碁をずっと続けて、実家は肉屋でしたが商売が終わると碁会所に毎日通っていました。本当に囲碁の好きな父で段位まで取って楽しんでおりました。そんな父でした。

【淵脇美代子さん】



○会社のことと自身の生き立ちだけを話させて頂きます。会社は“秦野精密”という会社です。自動車の部品を大体95%くらい作っている会社です。ここは本社機能で、戸川にプレス生産工場があります。プレスということですが一応FBプレスといって特殊なプレスになります。プレスがあつて材料を流して製品になるの

には、その機械設備は250t~800tあります。一式できるように購入すると一億五千万円くらいが一揃いの設備になります。この機械が戸川・豊橋・薩摩に今40台くらい入っています。コロナでいろいろ大変ですが、止まっていた仕事も休んでいた分盛り返していますが、何処まで戻るかが私は不安です。お客様は休んでいた分生産をかけていますが、それが今後戻っていくのかかなり不安です。

○私は秦野で生まれ、秦野で育ちました。秦野のお天神さん(学問の神様)のすぐ近くで上大槻というところです。三人姉妹と一番下が男の子です。先程の話で男の子(長男)は大事にしてくれるという事です。我が家もかなり差別されて育てられました。今は家をとってバラ作りをやっています。弟の息子も一緒にやってくれています。ただ両親が亡くなっているので、近くにいても命日やお墓参りの時しか行かなくなってしまうのですが、親がいないということもこんなにも寂しいものだと思っています。高校を卒業して伊勢原の市光工業に就職しました。今住まいは御殿場ですが、秦野で生まれ秦野で仕事しているご縁でロータリーに入会させて頂いております。入会して12年になりますが、まだまだロータリーについて勉強ができておりませんのでこれからも宜しくお願い致します。

【北村まり子さん】

○生き立ちから話しますと、終戦後生まれましたが生まれてすぐ母が亡くなり、小学校3年で父が亡くなりました。母が亡くなってしまったのでお乳がなく家の裏にヤギを飼っている家があり姉たちが貰ってきてくれたそうです。

ヤギの乳は凄く栄養があるそうです。兄弟は9人兄弟の一番下になります。長男と私は17歳違いで、父が亡くなってすぐに兄は結婚しお嫁さんが来たわけです。そしてずーっと育ててくれました。

- 私は仕事が好きです。兄が神崎さんと同様に工業団地に移りましてずっとお世話になってます。そして兄の仕事を私も手伝ってまして、18歳又は19歳の頃幌付きの4tトラックを運転して、藤沢のお得意さまに納品に行っていました。毎日行くわけですから今日は海沿いを走ろう、一国を走ろうとトラックを運転してベアリング加工したものを積んで運びました。



- 兄が良く言うのは「自分を奢らず、人に感謝する気持ちをいつも忘れてはいけないよ」ということで、今も89歳になりましたがまだまだ元気です。いつも生き方を相談しています。後は敵を作らない、というのは先日息子から「人のこと言ってるけど自分はどうなの」と言われてしまいました。この歳になって敵を作るより仲の良い友達をたくさん作ったらという事で、考え方も変えてきました。とにかく一番下なので甘やかされてきたことは確かです。このように自分も何となくのほほ〜んと生きてきたような気がします。これからも宜しくお願い致します。

【古谷スミ子さん】



- この“活動計画書”を3分間スピーチの為にちょっと見ましたらP13の下方の中島・岡野年度に3分間スピーチは統一テーマ「私とロータリー」と決まりましたと記載されています。なるほど私たちの先人は統一テーマを決めて3分間スピーチに取り組まれたんだなと改めて勉強致しました。

○そこで皆さん次はP34です。このあたりのページを皆さんがご覧になっているか分からないのですが、ここには歴代ガバナー・分区代理・会長・幹事と書いてあります。ここに初代の会長二代目会長に小泉俊久さん、次に加藤健さんと会長を務められました。私はこのお二人のことを大変印象深く心の中に残っています。

どんな事かといいますと先に加藤健さんのお話しをしたいと思います。私が入会してまだ1年足らずの時に卓話が当たっていましたがこの冊子を見ずにロータリーに来たので忘れていたのではなく気付きもしませんでした。その当時向かいの席の人に今日は卓話だねと言われて、話しの内容を色々考えました。高校を卒業して市内の工場に勤めた18歳の女の子が働きながら大学を出て教員になるまでの来し方を話しました。それは勉強が大変だった事ではなくどうしたら秦野という田舎から東京の大学に通うことができたのか、そしてどうして4年で卒業できたのかそんな話しをしました。卓話が終わり帰ろうとした際に加藤健さんから「古谷さんいい話しだったよ」と言って下さいました。私は何の準備もできなくて不用意な人間でしたが、この一言で大変救われた思いでした。それから卓話や3分間スピーチ等は大切にしなければいけない、1年間のプログラムは見なくてはいけないと会長に教えられました。

- 小泉俊久さんとの触れ合いは後になるので後でお話しさせていただきます。皆さんが覚えておられるか分かりませんが、若気の至りと申しますか会長になる前に芝桜の植栽という事業をやらせて頂いたことがあります。皆さん大勢の方に協力して頂きましたが、頓挫しております。始めた頃ロータリーにも協力を頂いた時に小泉さんが植栽後の例会の時に「おスミさん、俺行けなくて悪かった」とその声掛けをされて私は芝桜頑張ってたよ良かったと思いました。参加できなくても行事に関心を持っている方がおられるんだと嬉しく思いました。